月刊
オリーブ
2023
7
Vol.98
— 真の更生を目指して —

年次理事会、総会を経て 改めて人生のターニングポイントを探る

オリーブの家
理事長
青木康正

たとえ死の陰の谷を歩むとしても私はわざわいを恐れません。あなたがともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖それが私の慰めです。（詩篇23・4）

老若男女問わず、人は本であったり、先達であったり、時々の人間関係も然り、影響は様々ですが、それによって人生のターニングポイントなるものが与えられます。それを選ぶのは自分です。神は人に自由意志を与えられますが、自身で選ぶのですから当然そこには責任が伴います。その歩んだ道が人生（過去）と言われるものだと私は思っています。

逆に自身で選ぶことの出来ないものが二つあります。それは等しく必ず死に向かって進んでいるという事と、歩んできた道（過去）は変える事が出来ないと言うことです。

さて、選ぶことの出来ない二つの事を考えてみます。

第一に死についてです。誰でも一番気になるのは死です。隣の国で起きている戦争、…毎日悲惨な報道がなされますが、平和国家（平和ボケとも思える）日本ではどこか他人事として報道されているように思います。しかし、遠い先の自分事だとしても自身の死は大変気になるところです。死は避けて通る事は出来ません。しかし、死に関する考え方（死生観）によって死の捉え方は大いに異なります。

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。（ヨハネ3・16）

聖書の教える死は肉体と魂の分離であって死は消滅では無く通過点でしかありません。通過点だと自覚できた瞬間、死の恐怖が極端に薄れ、平安に変わるから不思議です。最後を知る事と知らない事の違いです。

第二に、過去についてです。他人と過去を変える事は出来ませんが、自分の心が何によって支配されているかで過去そのものが貴重な体験となったり、惨めなものとなったりします。

私は神を知り冒頭の聖句に出会った時、矯正施設を含めた過去そのものが変化し、正に私のターニングポイントとなりました。２０ー１年３月３日に15年の服役を終え社会復帰しましたが、まさに十年一昔の言葉の通りです。現代社会は日々目まぐるしく変化が起きます。５年で社会は劇的に変わります。否、現実ー年前と今とは全く違います。

オリーブの家は皆様のお支えによって一年一年積み重ね10年目を迎える事が出来ました。年次理事会、総会を終え新たな目標も生まれ役員、職員一丸となって邁進しています。

わたしはあなたに命じたではないか。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたが行くところどこででも、あなたの神、主があなたとともにいるのだから。（ヨシュアー・9）

この年度を覚悟を持って歩んで参ります。本年度も引き続き宜しくお願い申し上げます。

ファミリーの声

5月10日　天草ドライブ小旅行

【Oさん】

私にとってはもう20年近く戻ることのなかったふるさと天草。念願の「天草未来大橋」を渡る日がやってきました。とてもわくわくしながら福祉車両に車椅子のまま乗車し、いざ故郷へ。この日はお天気にも恵まれ、気持ちの良いドライブとなりました。同行されたみなさんとも和やかに車内で会話しながら天草本渡に。やはり車内から見るふるさとの景色は本当に懐かしく、また暮らしていた時期にはなかった未来大橋を渡れて感動でした。ふるさとの景色や光は気持ちよく、その優しく沁みてくる空気感に安らぎを得ました。また、機会があれば、天草1号橋そばにできたアーチ型の橋も渡ってみたいし、釣り好きの皆さんの同行もできればと期待しています。福祉車両が導入されたことで、家電量販店などにも連れて行っていただければと楽しみにしています。これからもよろしくお願いします。

【Iさん】

5月10日。この日は天気も良く、最高のドライブ日和でした。この日をみんな楽しみにしていましたが、理事長、事務長、そしてコーポ池田に住んでいらっしゃる天草ご出身の方を含め、オリーブの家のファミリー5名の合計7名で、天草への小旅行を楽しむことができました。車から見る景色は最高でした。今年の2月に開通したての「天草未来大橋」を渡りながら、その橋の上から見る海はとてもきれいでした。天草の食事も楽しくおいしい時間を過ごせました。久しぶりに生まれ育った故郷を訪問できたその方もとても喜んでおられました。自分も久しぶりの遠出で楽しい一日でした。感謝します。

【Mさん】

久しぶりに皆さんでお出かけして、天草までの車中で、みなさんと談話できたことがとても楽しかったです。また、道中に観た車窓からの眺めがとても良く、特に海の眺めが爽快でした。そして、みなさんで頂いたお昼の食事も楽しく美味しかったです。ときどきこのようなお出かけがあればうれしいです。

【Tさん】

オリーブの家に来て1年3か月。理事長はじめスタッフの皆さんにはご迷惑を掛けっぱなしのこんな俺でも社会で生きて行けるように指導してもらい、一人前にドライブ旅行にも連れて行ってくださいました。おかげで皆さんとも一緒に笑顔でこの日を楽しみ、喜び、良い想い出作りができた一日となりました。そしてオリーブの家での生活を続けられることを心から感謝しています。天草産の刺身定食、土産物を買ったりソフトクリームをみなさん一緒に食べたりしたことも良い想い出。この想い出を決して忘れず、これからの社会生活を送っていきたいと思います。

福祉車両が届き初めての小旅行です。天草の海を皆さんと堪能してきました。車椅子生活のOさんが地元への凱旋です。最後部から車椅子に乗りながらOさんが、そこを右だ、左だと「カーナビ」。それも楽しそうです。

青木康正

支援者からの寄稿

被害者側と加害者側
― 癒し、赦し、和解

今井　洋子

18・神は、常にどんな人にも呼びかけ、招いている

この連載も今回が最終回になりました。被害者側と加害者側については、もともと関心があったわけではありません。本を書いたことで深く考え、また信仰の原点になったイシューです。

これまで、拘置所や刑務所の中にいる加害者側とかかわるクリスチャンのことは見知ってきました。ならば被害者やご遺族のケアも教会やクリスチャンの仕事ではないか、と、この20年思ってきました。ですが加害者の存在は収監されているので見えやすく、「罪びとを招く」キリストを紹介しやすくもあります。他方、被害者や遺族が、どこにいるかは、知り得ません。また、人の心のケアは繊細な分野なので、人間的な浅知恵で手を出すことは、さらに人の心を傷つけかねません。

一時、私は、グリーフケアを学ぶことで、被害者や遺族の方のケアを教会でできないかと、誰にも言わず個人的に模索していた時期があります。ところが私自身の家庭の事情から、グリーフケアを学ぶ機会を逸していました。

そうこうするうちに、ひょんなことから、熊本の「オリーブの家」から理事の話が舞い込んできます。加害者側でなく、被害者側のケアのことを考えていた私は、神に祈りました。

『弟を殺した彼と、僕。』の原田正治さんは、弟さんを殺害した憎い長谷川死刑囚に面会に行き、「また会いたい」と思いました。それを私は、長谷川死刑囚が神に出逢い、心から悪いことをしたと思い、被害者遺族の怒りや憎しみを受け止められるように変えられた、それが原田さんに伝わったからだと考えています。長谷川死刑囚は、逮捕された直後は、自分が保険金殺人をしたのは、誰それが借金を返済するように脅したからだ、など、自分のしたことを他人のせいにしていました。逮捕されたので人生が終わったと自殺もはかります。誰の目にも明らかな大罪を犯しても、自分が悪かったと心から思うことはたやすくないのです。本当の神イエスの愛を知らずして到底できないと思います。ですが、心から悪かったと思うことは被害者遺族の心も癒す力があると思いました。

そんなことをツラツラ思った私は、「オリーブの家」の活動は、間接的であっても、被害者遺族のグリーフケアになる可能性があり、そこにも神様のご計画があるかもしれない、と思いました。それで、理事をお受けすることにしたのです。

長谷川死刑囚や、被害者遺族だった渡辺和子シスターを思い返し、被害者側にも加害者側にもキリストが必要だと改めて思います。そのキリスト・イエスは「わたしのもとに来なさい」と、常にすべての人に呼びかけています。そのイエスの愛を受け取れますように……。それが私の願いです。

今井　洋子
いまい・ようこ

1966年金沢市生まれ。東大学文学部卒。信託銀行勤務、専業主婦を経て、子どもを教える仕事をしながら、ノンフィクションを書いている。2004年受洗。2018年よりNPO法人「オリーブの家」理事。前川ヨウの名前で、原田正治著『弟を殺した彼と、僕。』（2004年、ポプラ社）を構成者として執筆。雑誌「東京人」2011年3月号に「二・二六事件1被害者の娘と加害者の弟の物語」、2016年8、9、10月号に「二・二六事件ある青年将校の弟」を寄稿。

オリーブの家で見つけた笑顔

プラム摘み取り体験へ行ってきました！

オリーブの家から北へ車で30分ほどのところに植木町のプラム園があります。紹介して頂いたので早速行ってみました。その日は、雨が降ってましたが、現地に着くころには小雨になりました。

無農薬・無化学肥料・無除草剤で育ててあります。熟れているプラムを木から自由にもいで食べることが出来ました。真っ赤な実は、確かな手ごたえがあり、食べるととても甘く感じました。

沢山のプラムを買って帰り、ファミリーやスタッフにも分けて食べてもらいました。

副理事長　小原順子

全国のオリーブの家をご支援くださる皆様へ

18か月間に渡る、今井理事の寄稿「被害者側と加害者側ー癒し、赦し、和解」は、私たちにとても多くの気づきを与えてくれました。次号からは、DV加害者更生プログラムや被害者支援活動をされておられるNPOステップの栗原加代美理事長の連載が始まります。寄稿文を通じて共に学んで参りましょう。いつもありがとうございます。

副理事長　永山 太

2023年3月～5月会計報告

		3月	4月	5月
月次自立準備支援人数		4名／7室	2名／7室	3名／7室
グループホーム利用者数		8名／8室	8名／8室	8名／8室
累計ファミリー数		148名	149名	150名
収入	自立準備ホーム	600,592	618,790	352,836
	献金	769,000	572,500	815,500
	グループホーム	2,048,115	2,152,201	1,987,047
	その他	381,811	114,136	100,179
収入合計		3,799,518	3,457,627	3,255,562
支出	家賃	554,350	523,700	523,700
	水道光熱費	197,220	173,248	139,357
	食費	379,745	369,722	306,198
	人件費	2,083,554	2,268,332	2,023,405
	活動費	121,454	183,132	256,840
	その他経費	560,859	525,849	536,639
支出合計		3,897,182	4,043,983	3,786,139
収支合計		-97,664	-586,356	-530,577

前月繰越現金預金残高	5,043,262	3,983,728	3,605,722
翌月繰越現金預金残高	3,983,728	3,605,722	3,470,815
施設準備積立金残高	3,200,067	3,250,067	3,300,067

※ 活動費には、理事会参加旅費、理事会食事代等、133,800円が含まれています。

銀行振込

肥後銀行（銀行コード：**0182**）
京町支店（支店コード：**156**）
口座番号：（普通）**1574408**
口座名義：NPO法人オリーブの家
トクヒ）オリーブノイエ

郵便振替

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：**990**）
口座番号：**17180-5444801**
口座名称（漢字）：NPO法人オリーブの家
口座名称（カナ）：トクヒ）オリーブノイエ
（他銀行からお振込の場合は）
店名：七一八（読み：ナナイチハチ）
店番：**718**
口座番号：（普通）**0544480**

月刊オリーブ
2023年7月１日発行
(毎月1回発行)　第98号

編集・発行　ＮＰＯ法人「オリーブの家」
〒860-0082　熊本県熊本市西区池田２丁目９番１号コーポ池田201
TEL 096-342-4123　FAX 096-342-4248　E-mail 0110harvest@gmail.com
http://seishoforum.net/olive-house/about/